



国立大学法人 北海道教育大学 教育学部 札幌校  
総合学習開発専攻  
生活・食育グループ  
准教授  
佐々木 貴子

2007年度のコープさっぽろCSRレポートを拝見した感想を述べさせていただきます。本レポートから、生活協同組合コープさっぽろが1998年の再建以来、店舗・宅配システム「トドック」・共済などの事業を通じ、組合員が安心して利用できる商品・サービスを提供し、北海道民の豊かなくらしと持続可能な環境保全型の社会づくりを理念に、事業を推進してきた姿勢を知ることができました。また、この事業推進のために、コープさっぽろの基本姿勢を「7つのお約束」(2004年制定)として具体的に組合員へ提示し、「くらしの安全」と「より豊かなくらし」をめざした活動を展開していることは意義あることと思いました。しかし残念なことに、'07年度は「CO・OP牛肉コロッケ偽装事件」「CO・OP手作り餃子事件」が相次いで起こり、コープさっぽろが最も大切なお約束として掲げた「食の安全・安心」は果たされず、組合員を裏切る結果となってしまいました。本レポートにおいて、この責任を真摯に受け止め、「『食の安全・安心』への信頼回復に向けて」の頁を設け、事件の経緯とその対応、さらに再発防止に向けた取り組みを記載したことは評価できることであります。ぜひ、紙面上に終わらせず、組織全体で再発防止に取り組む今後の姿勢に期待をします。

また、「お約束その2」である「いつも組合員さんの『声』を大切に、願いを実現していく」ために、全国的にも注目されているウォッチャー活動や、CS推進室での「ご意見カード」「コープベル」の集約など、組合員の声を反映した体制づくりをしていることを知りました。しかし、本レポートでは

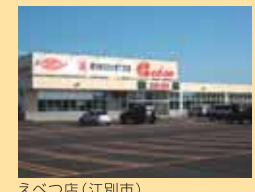
活動や意見の件数を報告するのみで、その内容までの記述はみられませんでした。'08年度からは、店頭でのKIOSK端末や自宅のパソコンから、産直品の生産履歴情報(原料情報、原料の産地、アレルギー情報、添加物情報など)の閲覧ができる仕組みを全店へ広げ、さらなる情報提供の予定が記載されていました。そこで、ウォッチャー活動や意見の内容等もこのような情報システムを利用して、具体的に開示していくことが「お約束その1」にもつながることであり、他のスーパーマーケットにはできないコープさっぽろの組合員への「安全・安心」に特化した取り組みではないかと思いました。

一方、環境保全型の社会づくりをめざした取り組みについては、地球温暖化防止、廃棄物の発生抑制と削減、環境に配慮した商品の開発と普及、環境保全型地域社会づくりの大項目ごとに、'07年度の環境目標を掲げ、その評価結果が記載されていました。多くの項目で目標が達成されているものの、店舗間のばらつきや達成目標の見直しが必要である項目もみられました。

持続可能な社会の実現に向けた取り組みを担うコープさっぽろとして、ステークホルダーとコミュニケーションを図るとともに、継続的なCSRレポート作成に取り組む、情報公開に努められてきた姿勢に対して敬意を表するとともに、今後の益々の取り組みを期待しております。

最後に、今年度のCSR報告書には、前年度に比べて構成、レイアウト、配色等において、読み手が理解しやすいような配慮がみられ、好感が持てました。

沿革



※年表示は年度を表しています。